

令和元年度京都府総合教育会議

令和2年2月26日(水)13:30~14:30

京都産業大学むすびわざ館3階 教育委員室

次 第

1 開 会

2 キャリア教育の状況について概要説明

特徴的な教育内容等について

3 意見交換

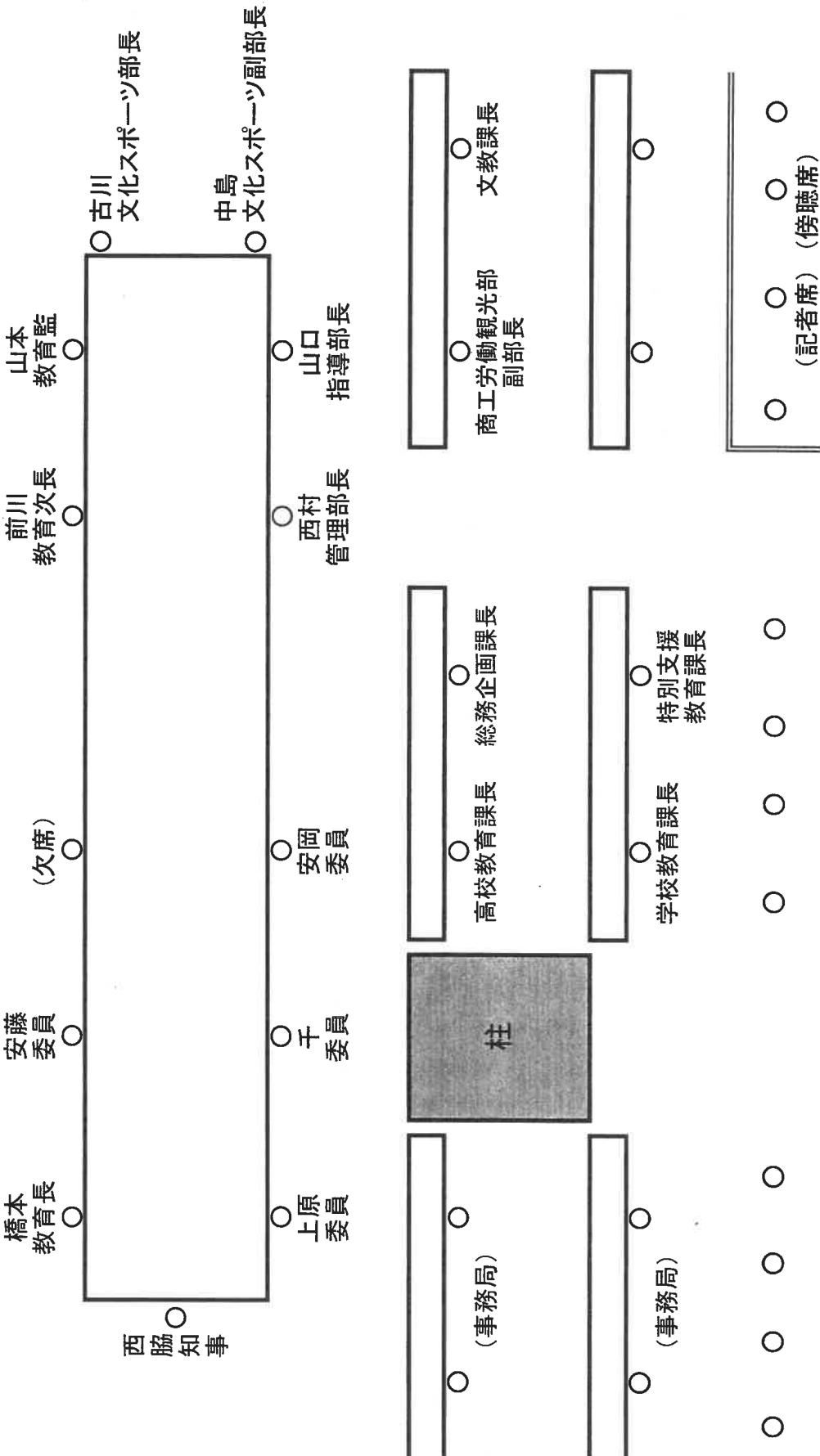
キャリア教育のあり方について 意見交換

4 その他

5 閉 会

令和元年度京都府総合教育会議配席図 <京都府産業大学むすびわざ館3階 教育委員室>

※ 会議中締切



職業教育・キャリア教育の推進について

教育委員会

1 職業系専門学科の状況

※令和元年度に生徒が在籍する学科

農業	北桑田、桂、木津、農芸、須知、綾部（東分校）、福知山（三和分校）						
工業	田辺、工業、宮津、峰山						
商業	京都すばる、木津、網野、桃山（定時制）						
水産	海洋	家庭	福知山（三和分校）、峰山（弥栄分校）	情報	京都すばる		
福祉	京都八幡（南）						

◆特色ある取組◆

- 高校生カンパニーの開設（模擬株式会社による経営活動学習）

別添資料1

- 学科連携による青空市場の運営 別添資料2

- グローバルGAP認証取得による農場経営の改善 別添資料3

- オリジナル商品の開発

- ・海洋ブランド、海と山をつなぐ10次産業化
- ・「京の工」ブランドの管理運営、製品販売ルートの開拓
- 大学や企業との連携などによる未来のスペシャリスト育成
 - ・複数の大学と連携し、環境に配慮した農業を実践
 - ・各企業等で活躍する卒業生による技術指導

2 進路実績

	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	普通科
就職	45.3	57.5	34.3	36.7	58.1	22.7	63.2	7.7
進学	51.2	41.4	65.8	62.0	32.3	76.0	36.8	89.0
その他	3.4	0.8	1.9	1.3	9.7	1.3	0.0	3.3

◆福祉、工業は学科と関連した就職が比較的多く、就職者のうち6割～8割程度を占める。

◆農業では学科と関連した就職はかなり少なく、就職者のうち1割未満程度。

◆商業、情報は比較的進学が多く、大学卒業後に学科と関連した就職をする場合を考えられる。

3 学校新設・学科改編

○学校新設…丹後の未来を担う人材を育成し、地域社会の活性化に貢献する学びを実践

学校名	学舎名	学科等
宮津天橋	宮津学舎	普通科、建築科
	加悦谷学舎	普通科
丹後緑風	網野学舎	普通科、企画経営科
	久美浜学舎	アグリサイエンス科、みらいクリエイト科
清新	昼間定時制、単位制、総合学科	普通系列、農業・園芸系列、服飾・調理系列（仮）

○学科改編…新しい時代に対応した教育の推進と専門教育の一層の充実

学校名	現行	変更後
北桑田	普通科、森林リサーチ科	普通科、京都フォレスト科
農芸	農産バイオ科、環境緑地科	環境創造科、園芸技術科、農業生産科
大江	普通科、ビジネス科学科	地域創生科 別添資料4 ※文科省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」においてアソシエイト校に指定（R元～）

4 キャリア教育の推進

○高等学校（普通科含む）

■わたしの未来づくり支援事業

主体的な進路選択や労働法規など働く上で必要な社会的知識の習得を支援し、早期離職の防止・安定的な雇用を実現（全校で実施）

- ・民間企業の社員や起業家などによるグループワーク・講演会
→堀場製作所・日東精工など、地元企業や上場企業との連携
- ・労働者として働く上で必要な法令上の権利や現代の労働問題等の学習
→法務局や京都弁護士会から外部人材を招き、専門的な講義を実施
- ・インターンシップや職場訪問等、生徒が実際に企業の現場や仕事を体験

	H28	H29	H30
実施校数	39校/47校	35校/47校	40校/47校

○小・中学校

■KYO発見仕事・文化体験活動推進事業

原則として小学校4年、中学校2年を対象とし、小学校では仕事探求や職業に関わる体験活動、中学校では職場体験活動などを実施

	H27	H28	H29	H30
職場体験学習実施校数（中学校）	94校/96校	96校/97校	95校/96校	95校/96校

※うち、「KYO発見仕事・文化体験活動」を活用して職場体験学習を行っている中学校は82校（平成30年度）

■未来の担い手育成プログラム研究校（中学校対象）

別添資料5

京都を中心に活躍している5つの企業・大学（※）と連携して、子どもたちが社会に出たときに直面するような「正解のない問い」に、グループで協働しながら長期的・継続的に取り組む。※株式会社丹後王国、グンゼ株式会社、株式会社美濃吉、京都大学iPS細胞研究所、株式会社祇園辻利

- ・府内の中学校5校を研究校に指定
- ・成果を発表する「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」（3月7日）には研究校5校を含めて中学校8校がエントリー

○特別支援学校

■京しごと技能検定

清掃・接客・パソコン実務・介護の4分野の職種別専門的技能を客観的に評価するシステムを構築し、地域の雇用ニーズに対応したキャリア教育を推進

	H29	H30
受検者数	280名	351名

■ふれあい・心のステーション

府民との交流や企業の理解促進を図るため、大丸京都店において開催。全府立特別支援学校が参加し、生徒自らが製作品（窯業・木工・縫製・農産品等）の販売実習・実演を実施

	H28	H29	H30
来場者	約5,000名	約7,000名	約4,000名
販売店数	5,361点	約7,000点	約7,000点
売上	2,045,810円	2,210,650円	1,822,860円

■ジョブパークとの連携

はあとふるコーナーの就労支援員との連携により、就労希望生徒を支援

- ・企業実習先の紹介
- ・生徒、教員、保護者を対象とした職業意識、就労基本マナー、面接対策等のセミナーの実施
- ・企業担当者の学校見学

第33回

販売学習

京都すばるデパート

開催日：2019年11月16日（土）、17日（日）

16日：開店式 午前9時～午前9時30分

営業時間 午前9時30分開店～午後3時閉店

17日：営業時間 午前9時30分開店～午後3時閉店

【意義】

- ① ビジネス社会と連携した実際的・体験的学习の機会とする。
- ② 本校教育の成果を、地域社会・中学校・大学・企業に紹介する機会とする。
- ③ 全生徒・全教職員が取組み高度なコミュニケーション能力を育む機会とする。

【目標】

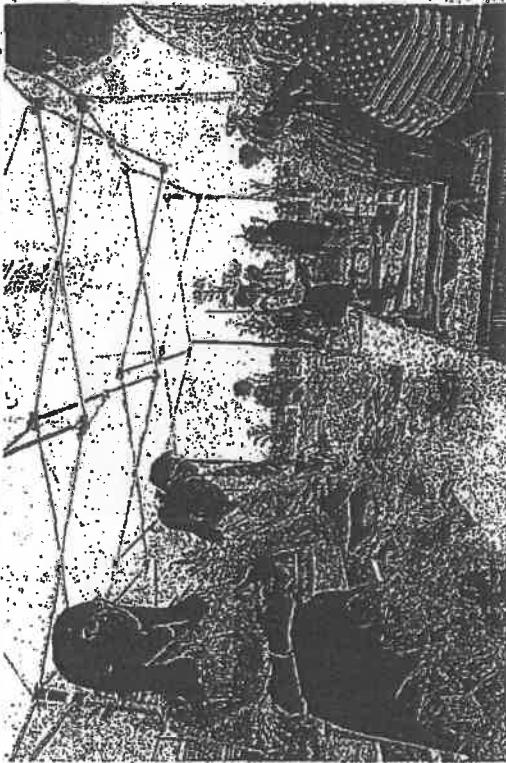
- ① 実際的学習から発生する課題を解決する能力を身に付ける。
- ② 他人に依存することなく、主体的に仕事を作り出す創造力を身に付ける。
- ③ 顧客志向・社会利益志向を意識したビジネス感覚を身に付ける。



11月16日（土）、17日（日）の2日間にわたり、第33回販売学習京都すばるデパートを実施しました。天候に恵まれ、約6,000名を超えるお客様にお越しいただきました。日々の学習の成果を生かし、ご来店いただいたお客様を生徒一人一人が最高の笑顔でお迎えし、工夫を凝らしおもてなしの心を持った店舗運営を心掛けました。ご来店いただきましたお客様をはじめ、ご協力いただきました協力企業様、誠にありがとうございました。

木津高の農業見習会

木津高(木津川市)の生徒が、自分たちで育てた農作物を近くの城山公園駐車場で販賣する「城山合A B Cマーケット」を開催木曜日(1月26日)に開設している。商業や農業を学ぶ生徒たちが主婦的運営する販売市場で、地元住民に触れ合の中、「生産者の顔を見えて安心して購入を感じられる」と好評だ。



販賣に貢献した生徒の販賣をする生徒
(木津川市城山合・城山公園駐車場)

木津高 毎週木曜日にラーニング

新鮮なお手格付

「A B C」は「アグリ・ビジネス・コミュニケーション」の頭文字。この「農のまちづくり」をコンセプトに城山合の「エコラウン開発が進んでおり、夏休みは中止し2学期も開設しており、夏休みは午後2時から3時、今月1日は午前11時10分から1時間開く予定。運営は午後1時開く。木津高2月7日から3月1日まで、木津高の生徒が栽培したトマトやキウイ、ネギなど季節の農作物が並ぶ。食事には板橋日や栽培した生徒名のほか、農業を始めた回数などを記されている。生徒たちは売り上げを計算・分析し、消費量の根拠から次回何をどれだけ販売するかを協力しながら決めている。訪れたのは2回目という近くの高野千尋さん(24)は「新鮮でおいしく、値段もお手ごろ。毎回来たい」と満足そうだった。

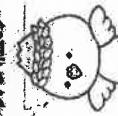
山城版 27.6.9

(三輪太郎)

田大河君(16)は「毎回来てくれた以上に来てくれた。ただ売るだけでなく、お客様への質問などにも答えていきたい」と意気込む。

5月下旬から週1回開設しており、夏休みは午後2時から3時、今月1日は午前11時10分から1時間開く。木津高2月7日から3月1日まで、木津高の生徒が栽培したトマトやキウイ、ネギなど季節の農作物が並ぶ。食事には板橋日や栽培した生徒名のほか、農業を始めた回数などを記している。生徒たちは売り上げを計算・分析し、消費量の根拠から次回何をどれだけ販売するかを協力しながら決めている。訪れたのは2回目という近くの高野千尋さん(24)は「新鮮でおいしく、値段もお手ごろ。毎回来たい」と満足そうだった。

「A B C」は「アグリ・ビジネス・コミュニケーション」の頭文字。この「農のまちづくり」をコンセプトに城山合の「エコラウン開発が進んでおり、夏休みは中止し2学期も開設しており、夏休みは午後2時から3時、今月1日は午前11時10分から1時間開く。木津高2月7日から3月1日まで、木津高の生徒が栽培したトマトやキウイ、ネギなど季節の農作物が並ぶ。食事には板橋日や栽培した生徒名のほか、農業を始めた回数などを記している。生徒たちは売り上げを計算・分析し、消費量の根拠から次回何をどれだけ販売するかを協力しながら決めている。訪れたのは2回目という近くの高野千尋さん(24)は「新鮮でおいしく、値段もお手ごろ。毎回来たい」と満足そうだった。

京都府内
初の取り組み

農業系高校2校が グローバルGAP 認証取得に挑戦！

京都府立木津高校は、率先でGAP認証を取得

京都府の GAPモデル農場として 取り組みを発表

平成29年（2017）京都府立木津高校と京都府立農芸高専が農業生産の国際的な基準による認証であるGAP認証を取得した。選定された農作物での取扱いは京都府内で初めて。生産農家に先駆けて取得したこともあり、新聞などでも大きく報道され、話題を呼んでいる。両校は、平成30年（2018）2月14日に府内の山城地域農業振興協議会が開いた研修会に参加し、事例発表を行った。



自らの取り組みが 評価につながる

木津高校の発表は、システム農芸科専修の那須和志先生の説明から始まった。「農業系高校の場合は、儲かりなくてもいいと思われているかもしれませんけれど、それは都市伝説です。農業の運営費は人件費を除き、生産した挙げてわかるっていきますから、赤字を出しながら育てにくくてはなりません。またたく間に農業をやつてしまふことから、僕たちは毎年生産していませんが、数値は日々から危機感を感じていますので、GAP認証の取得は非常に嬉しいなと思いました」

那須先生と一緒に発表を行ったのは、システム農芸科の鷲井裕久さんと神音

さん。二人とも一人のなかから新規事業を心から想はれ、5月ごろから中止しなってGAP認証取得に向けて準備を始めた。

「選定文書にある200項目に及ぶチェック項目を見たらさすがに、正確なところ操作出したくなりました」と櫻井さん。

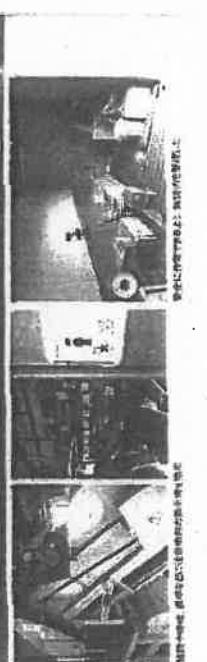
「こんなに小さな農業をしているのかを擇るためにかなりの時間を費しました。特に大切にさせてもらいたい感じだのは、リスク管理という項目でした」と櫻井さん。リスク管理では、どんな危険が起りうるのかを想定して、それに応する対策を常に実施して手順書で示すことが求められる。手順書と指示書は、誰にでも伝わるようついで農場内に表示した。

左写真
●京都府立木津高校
吉田 純也
那須 和志先生
二种 育美(ひじみ)さん(農芸科3年生)
中野 隆司(ひのし)さん(農芸科3年生)
鷲井 裕久(ひづる)さん(農芸科3年生)



翌年へつなげる 翌年の学年で取り組み

京都府立木津高校 那須 和志先生
本校は昨年度の学年での組み込みであります。GAP認証を組織させるために、まずは学年の組織づくりを考えます。次に実験室を始めとする施設設備を整備していく予定です。その後は少額多品目栽培。これが実際に大きな必要があります。GAPの考え方に対するもの、手順はほぼ同じように取り組んでいます。しかし、それなどを分けないといけませんが、本校はまだ品目栽培が、これが実際にどのように取り組むべきかが決まりました。



総合教育の時間を使って検査を行い、農業や農芸草などの整理整頓、期限切れのものなどを徹底的に検査して、農業用具をエクリア。やるべきことは山ほどあります。また、農業や農科の課題はどう違うのか、農業用具はどのようにかなど、各類の作成についてわからぬことがあります。

そこでもう1年、那須先生は生徒2名とともに農業系高校初めてGAP認証を取得した青葉町立五所川原農林高校を訪問して、事前準備の練習を受講した。

「肥料の記録や、一冊のノートにまとめる工夫なども見せてもらいました。提出文書や日記類のイメージをつかることができました。すべてこの情報をオープンにしてく大きつたので、じつは参考になりました。感謝しています」と那須先生。

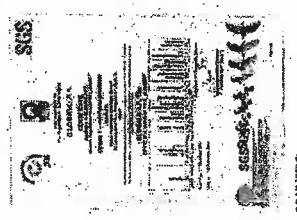
木津高校は1月の公開審査を経て、無事にGAP認証を取得しました。しかし、

公開審査ではピックシットするしかありません。茶の段階時の服装と、畠内作業のマスクの有無が手順書と異なっていたとの指摘を受けたのです。

「今回の難點を踏めて、公開審査は落とすためのダメ出し審査ではないといふことを意識しました。手順を求めているのではなく、どこまで学えて栽培に取り組んでいるのかを評価しているのだと思います」と櫻井さんと二種さんは口を揃える。

GAP認証の認証期間は一年のため、審査は毎年実施して行なう観があるが、平成29年度に取り組んだ3年生は今春卒業する。

「実習のなかで整理整頓を標準化するなど、リスク管理を考えることになり、後輩たちに取り組み方を伝えていくことを学んでいます。その授業を卒業までにつくる予定です」と一人は意欲的だった。



GAP認証

京都府立農芸高校は、トマトでGGAP認証を取得

GGAPで見つけたことに 驚かぬものはなにもない

農芸高校の事例発表を担当したのは、農業バイオ科野菜コースの中野監督さんと藤井洋さん。最初に藤井一先生から「京都府から依頼があり、専門校に農業をこよだいたて、農業監査トマト(未耕、未熟)でのGGAP認証取扱をゆるさずこじこじなりました」との説明があつた。

この活動に取り組んだのは、野菜コースの2年生13人、3年生13人だ。

「まずGGAPとのガイドブックを購入して勉強しました。それで準備して2学期から授業でもGGAPとの学習を重ねました」と藤井監査官。先生方は5月から10月にかけて専門家の指導をうけ、その内容を理解しながら進めていった。授業で学ぶほか、中間試験や期末試験でGGAPに関する問題を出題されましたが、藤井監査官は、「必ずしもGGAPの知識をもつてこなければなりません」と強調する。

「野菜や畜舎実習の授業で学び、実際にいる施設のリスク評価や作業手順の選定、帳簿への記録、施設設備の改修に取り組みました。京都府農林水産省農業振興課の方によるGGAP会議で意見交換会では、リスク評価のグループワークを行いました。トマトを栽培している施設の危

険箇所を書き出して、改善点を考えました」と中野さん。

「トマトの収穫の手順に沿む危険箇所を洗い出しました。果実に傷をつけないように梱包を長めに切り取つてから、再度梱包したり、収穫用コンテナは荷物が入らないように空の箱を上に置ねるようにしたのも参考でした」と藤井さん。

その後、収穫したトマトは必ず直さを養うようにした。農業監査を差し引けば、出荷量になり、農芸高校で収穫した以外のトマトが混ざつてしまい難明になる。またバクシマラーの色分けをして、出荷日を判断できるように工夫した。

GGAP認証取扱に向けての取り組みは、生徒同士で意見交換しながら進められた。また、授業で学ぶほか、中間試験や期末試験でGGAPに関する問題を出題されたという。

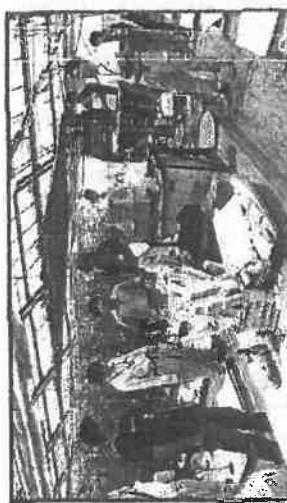
10月には、木津高校の公開監査を経験した。農芸高校の審査は、11月に行われた。書類審査は教員が対応。その後、開場状

況を確認するため、トマト栽培施設で審査が行われた。農業監査の審査の希望方法や環境している水の量も細かく聞かれたという。是正項目について書類を提出し、12月にGGAP認証を獲得した。

「最初のところは、なぜそこまでやらなければならぬのかと躊躇に思っていました。しかし実際に取り組んでみて、これは毎日の作業のなかですべて必要なことなんだと悟りました」と藤井さん。GGAP認証は取得できたが、一人はまだ改善するところがあると感じている。農業だからこそ、これから取り組んでいきたいと語っていた。



左写真:木津高校の公開監査の様子
右写真:京都府立農芸高校の公開監査の様子



京都府立農芸高校 GGAP認証取得までの流れ

- 3月下旬 農業部監査室が農業監査より国際水準GGAPモデル農場設置事業の認承
- 4月21日 専門家(コンサルタント)へ来、農場概要説明会(水耕栽培)でGGAP認証取扱をめざすことを決定
- 4月26日 農業監査、監査報告書(五所川原農林高校)を提出
- 5月12日 審査会社会決定、以降監査出張等などの対応を実施する
- 6月19日 専門家(コンサルタント)による指導の実施
- 6月26日 専門家(コンサルタント)による指導の実施
- 7月12日 専門家(コンサルタント)による指導の実施
- 7月21日 専門家(コンサルタント)による指導の実施
- 8月25日 専門家(コンサルタント)による指導の実施
- 8月31日 教員3名が群馬県立五所川原農林高校の監査審査を視察
- 9月以降 園場、施設など現地の改修開始
- 10月10日 木津高校GGAP公講習会実施
- 10月16日 審査者への農場説明会
- 10月27日 生徒対象GGAP講習会、専門院(コンサルタント)による指導
- 11月7日 検査、是正項目提出
- 12月1日 是正項目を改善し、是正審査提出
- 12月15日 GGAP認証取扱



生産農家の人たちも注目する GGAP認証取得の取り組み

農芸高校生がGGAP認証を取得したことに対する、農業関係者の関心度はかなり高かったようだ。専門監査には、参画者(生産農家、農業監査官など)との質疑答弁が行われたが、次々と質問が出た。

「普段だったらことは何か?」とい

う質問には、木津高校の藤井さんが「一番難しかったのは、リスクを考えてどうでした。もしも〇〇が起きたらどうしていいのか? 「もしも〇〇の後に、こう改善する」というやうに物事を考えるのは初めてでした」と答えた。

また、「GGAP認証を取得したことによる意識の変化を教えてほしい」という問い合わせに対しては、農芸高校の藤井さんが「これまでそれほどの気にせずやっていていたりやが。ついでいうことは注意しなくてはいけない」「これは危険だなどの意見を聞き、改善していくましく。それが今は当たり前のようにできるようになったことが、変化した部分ですね」と話した。

中野さんは、「2回、3回と力を重ねることで審査が厳しくなるに聞いているので、まだ改善しなくてはならない細かいところがある」と見て次の審査に向けてがんばってもらいたいと願います」とこれからも農業をめざして頑張る姿勢を示した。

GGAP認証の取得をめざすことは、農場や施設改修につながるだけでなく、生徒一人ひとりの意識を高めることにつながっている。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの運手として推進される食料の開拓農業のひとつに採用されていることがめざす目標にかかるに至るのではないか。

京都府のモデル農場として GGAPの普及をめざす

京都府立農芸高校 鈴根一宏先生

GGAPは生産工場ではなく、農場改築もつなります。生徒たちがああいよう、「こしうしよう」とさえ、自ら意見を出し自分が取り組めたことは、とても大きかったです。GGAP認証取扱を義務化して、安心・安全なトマトを生産していくと、生徒たちがやりきっています。

今回はGGAP認証取扱に向けて知識開拓がんばりましたが、一年前にね、本格的に、本当に何ができるかとあります。学校によっていろいろなやり方でできると思いますので、工夫しながら取り組むとよいと思います。



農芸高校生がGGAP認証を取得したことに対する、農業関係者の関心度はかなり高かったようだ。専門監査には、参画者(生産農家、農業監査官など)との質疑答弁が行われたが、次々と質問が出た。

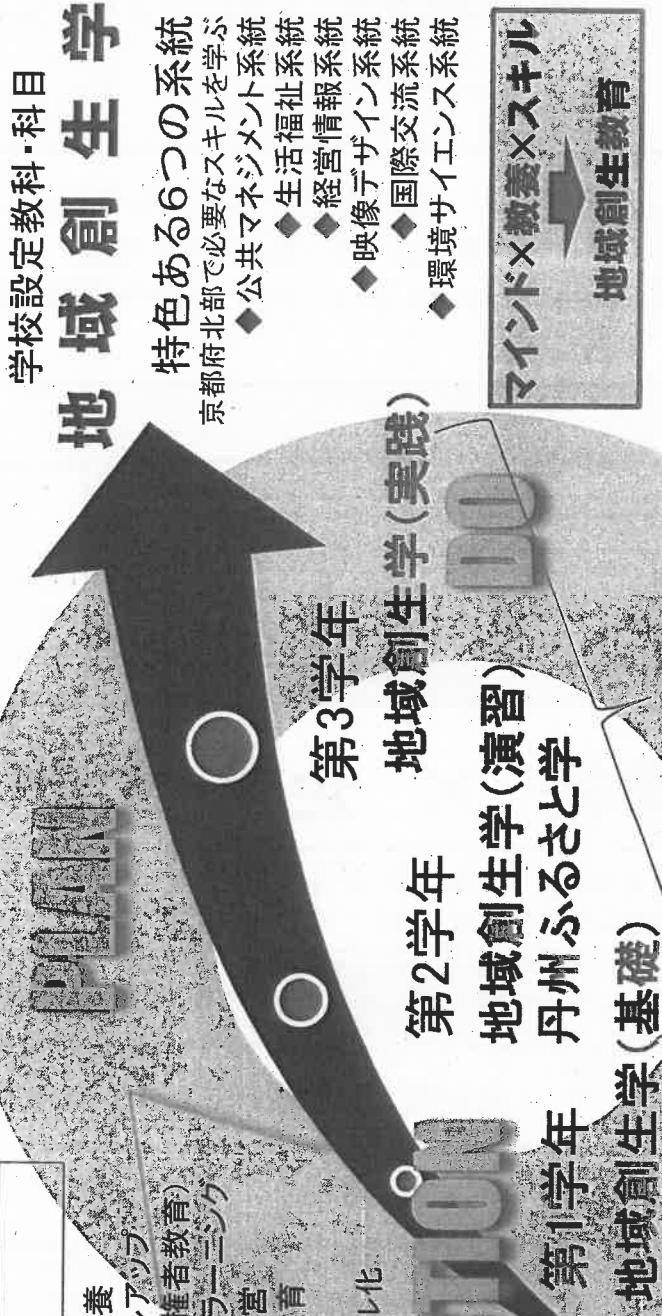
「普段だったらことは何か?」とい

特色ある地域創生教育を目指して 新学科『地域創生科』2020年スタート 京都府立大江高等学校

地域創生に必要な精神・知識・スキルを育む新たな教科
Entrepreneurship Friendship Citizenship Volunteership
チャレンジ精神を育む 友愛の精神を育む 望ましい市民性を育む ボランティア精神を育む

教育の特色

- チャレンジ精神やふるさと愛の涵養
- 特色ある6つの系統によるスキルアップ
- 地域の課題解決の政策提言(主権者教育)
- フィールドワークによるアクティブラーニング
- 地域の賑わいイベントの企画・運営
- インターンシップによるキャリア教育
- ボランティア活動の推奨
- 最新的ICT教育 スマートスクール化
- 各種団体との協働型学習
- 地元大学との高大連携
- 特色ある施設設備
- 知[地]恵の輪ホール
映像スタジオ
プレゼンルーム 等



『サテライト教室を設置』
『知[地]恵の輪ホール』
地域交流・協働型学習の拠点
地域の知恵を結集



「未来の担い手」を育成するプログラムを始めます

平成31年4月25日
京都府教育委員会

京都府教育委員会では、今年度より、京都を中心に活躍している企業・大学と連携して、子ども達が社会に出たときに直面するような「答えのない問い合わせ」に長期的・継続的に取り組む「課題解決型学習(Project Based Learning)」を行う、「未来の担い手育成プログラム」を実施します。

<プログラムの趣旨・内容>

- 教科の授業は大事、でもそれだけでは…
- 社会の変化に対応できる学びが必要なのでは…
- 学びって様々な活動で繋がり深まっていくのでは…

<企業・大学>

企業・大学が直面しているリアルな課題の提示と、研修校に対する出前授業による課題解決に向けたサポート

中学校 × 企業・大学

- 府内5校を、3年間の学びを見据えた「未来の担い手育成プログラム研究校」として指定
- 長期的・継続的に企業・大学からの課題に取り組む「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」開催

<中学校>

企業・大学が提示する「答えのない問い合わせ」を解決できるよう力を付けさせるための、課題解決型学習を通じた継続的・持続的な授業改善

- 認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ
- 将来に渡って学び続ける力を養う
- 3年間を見通して子ども達の力を伸ばす

<研究校、連携企業・大学及び課題>

研究校	連携企業・大学	課題
京丹後市立弥栄中学校	株式会社 丹後王国	丹後地方の特徴を生かした地域活性策も含めて、多くの人が訪れるための方法とは
綾部市立東綾中学校	グンゼ株式会社	10年後の時代に合った「ここちよい」インナーウェアを創造してください
京丹波町立瑞穂中学校	株式会社 美濃吉	新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広めてください
向日市立寺戸中学校	国立大学法人京都大学 iPS細胞研究所	誰もが安心してiPS細胞を用いた治療を受けられるようになるためには、どのようなことが必要でしょう
宇治市立黄檗中学校	株式会社 祇園辻利	世界中に日本茶を普及させるにはどうすればよいでしょう